

2022 年度 事業計画

施設名 グループホームきぬた

1 利用計画数

事業種別 重度身体障害者グループホーム 定員 5人 利用者 5人

(1) 障害支援区分

区分6	4人	区分5	1人	区分4	0人	区分3以下	0人
計	5人						

(2) 障害の程度

		身体障害者手帳				計
		1級	2級	3~7級	なし	
愛 の 手 帳	1度					0人
	2度	1人				1人
	3~4度					0人
	なし	4人				4
計		5人	0人	0人	0人	5人

(3) 年齢、性別

10代以下	0人	40代	0人
20代	0人	50代	4人
30代	1人	60代以上	0人
計		5人	

男性	5人
女性	0人
計	5人

※平均年齢：52歳（4月1日現在）

2 事業実施計画

(1) 活動・支援の内容

概要

<ul style="list-style-type: none"> グループホームは入居者の「わが家」であり、主体は入居者にある。支援の原則は、結論を急がず、時間をかけて、情報提供の工夫や経験の積み重ねをしながら、その人らしい人生を選び取っていくプロセス自体にある。「一緒に悩んで、一緒に取り組み、一緒に成果を喜び合える」ことを大切にしていく。 一人ひとりのニーズを確認し、それぞれのライフステージに沿った支援をチームで考え、実践していく。 入居者の意見や心配・希望を軸に、ご家族、ヘルパー事業所、通所先や医療機関、地域との連携を積極的に行う。 一人ひとりの生活を基本とした「外部サービス導入型」グループホームとして、その特殊性を維持し発展させるよう安定した運営を目指す。

(2) 地域交流

<ul style="list-style-type: none"> 「きぬたドーナツ通信」の発行が定着しており、ホームページの充実とともに、引き続きグループホームきぬたからの発信を積極的に行う。 砧町自治会を通じた防災訓練やイルミネーションパトロールへの協力が定着している。また新しい取り組みとして、入居者が参加する防犯パトロールやグループホームきぬたを会場にした「防災食研修会」など、引き続き地域の自治会活動に協力していく。入居者が地域の中で役割を持って暮らし、地域に認知される取り組みを進める。
--

(3) 家族、関係機関との連携等

- ・ 家族会の開催のほか、適宜、連絡や報告、相談につとめていく。特に家族の高齢化に伴い、家族への支援も必要となってきたケースもあり、家族への各種情報提供や、関係者と情報共有連および携しながら支援していく。
- ・ 日々の生活に関わるヘルパー事業所とのミーティングを定期的に行い、入居者の状況の情報共有、連携を強めていく。
- ・ その他、入居者にかかわるたくさんの機関との報告、連絡、相談、そして記録を確実に行う。

(4) ボランティアや実習生の受入れ

- ・ 引き続き入居者の点字学習を支援するボランティア、日曜日の夕食づくりのボランティアなど受け入れを継続する、
- ・ ボランティアおよび見学者の受け入れは、外部の新たな風を入れるとともに、当ホームの強みを外部に発信し、理解者・協力を確保することにもつながるため、感染対策を取りながら受け入れていく。

(5) 危機管理

- ・ 新型コロナの感染予防対策を引き続き継続する。
- ・ 管理者が不在の場合でも、スタッフ内部での情報共有と関係者への連絡体制のシステムを構築する。
- ・ 引き続き、夜間想定や実際の日没後の避難訓練を、地震や火災の想定で繰り返し行う。

(6) 職員研修の実施

- ・ 昨年度から定例化している「入居者の心とからだについて考える勉強会（ケーススタディ）」をさらに発展させ、コミュニケーションや入居者の健康や生活費（金銭管理）、家族のことなど、具体的な課題について深めていく。
- ・ 「障害のある人と援助者でつくる日本グループホーム学会」全国大会に参加し、各地の運営や実践から学び、当ホームの運営や実践に生かしていく。
- ・ この他、法人研修や外部研修にも非常勤職員が参加できるよう勤務を調整する。

3 重点課題と取り組み

2022年度は以下の点を重点課題として取り組む。

① 入居者それぞれの人生マップを作成し、将来を見越した今の生活を見直す

入居者の高齢化に伴い健康面での不調や不安が出てきている。同時にご家族も高齢化している。入居者それぞれの「人生マップ」を一緒に作成し、5年後、10年後を見越して現在の生活（健康、家族、支援、住まい、お金など）を見直し、今すべきことを明確にしていく。その中で個別支援計画やケーススタディの課題を抽出し、支援の質をより深めていく。

② 地域の中で役割を持って暮らし、発信し、より広い人たちと繋がる

砧町自治会への協力（防災訓練や防災食研修会、防犯パトロールなど）を更に進め、入居者自らが地域の中で役割を持って暮らし、地域住民への認知を進める。また、都内で同様の運営形態を持つグループホームとの交流・連携を図り、制度の維持と発展を進める。更には、ホームページなどを通じて、様々な地域で暮らしている障害者の方々など、より広い人たちとの繋がりを作っていく。

③ 20周年に向けた準備

グループホームきぬたは、2023年4月で開所20周年を迎える。入居者からは「みんなで旅行に行きたい」「きぬたの年表を作りたい」といった意見が聞かれ、今年度はそれを具体化し、準備を入居者・関係者とともに作り上げていく。